

館長のガラストーク

若林さんのこの作品は、花器の表面を色とりどりの花文様が埋めつくす大変華やかなものです。花を浮かべた透明ガラスの素地の中には緑、青、琥珀色、紫、白の色ガラスや銀箔がさりげなく散りばめられ、花柄を一層引き立てています。

これは、ヴェネチアで古くから用いられている「ミルフィオーリ（千花文）」という技法を応用したものです。溶けたガラスを型の中で花の形に成型し、長く引っ張って金太郎飴のような棒を作り、それを薄く輪切りにして素地に埋め込んだものです。

日本では、1990年代に石井康治さんが青森の工房で自ら花模様のパーツを作り、それを散りばめて「彩花文」というシリーズを発表しました。2010年に当館で石井展を開催したとき、3点の彩花文花器が出品され、その内1点が寄贈されました。

若林さんは一時、石井さんの工房でスタッフとして働いたことがあり、その時、この技法を学んだものと思われます。ただ、花柄の大きさや色彩、素地全体に対する花模様の割合などが、師である石井さんとかなり異なっていて、そこに若林さん独自の感性がにじみ出ています。

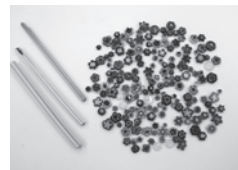
若林さんはもう1点、「樹林文花器」を出品していますが、これも石井さんの「樹映」シリーズ（1990年代）の影響を受けています。ここでも、単にモチーフを受継ぐということだけでなく、石井さんが生涯をかけて取り組んだ、日本の四季折々の豊かな色彩をガラスで表現しようとする大きな課題をも、自らのテーマとして引き受けているように思われます。



若林克昌
「舞花文花器」



石井康治
「彩花文花器」



ミルフィオーリのパーツ
(棒とそれを輪切りにしたもの)

妖精の森ガラス美術館 館長 畠山 耕造

<展覧会情報> 岡山のガラス作家たちPart.2“さまざまな意匠”展2012年9月19日(水)~2013年4月1日(月)

お問い合わせ先 妖精の森ガラス美術館 電話(0868) 44-7888

愛玩動物を飼養されている
皆様へ！

平成23年4月に家畜伝染病予防法が改正され、口蹄疫や鳥インフル
エンザの発生防止等を目的として、動物を飼養されている方は県知事
への報告が必要になりました。

対象になる動物を飼養されている方は、パンフレット及び報告用紙
等をお送りしますので、津山家畜保健衛生所まで御連絡いただくよう
お願いします。

○報告対象となる家畜

馬・鹿・めん羊・山羊・豚・いのしし・鶏(ちゃば、烏骨鶏等を含む)・
あひる・うずら・きじ・ほろほろ鳥・七面鳥・だちょう

○報告内容

家畜の種類・頭羽数(2月1日時点)

○報告書の提出期限

平成25年2月末日

○連絡・お問い合わせ先

岡山県津山家畜保健衛生所
〒708-1117
津山市草加部547-8
電話(0868)29-0040
(平日8時30分~17時15分)

